

# 2024年3月期 第1四半期 決算説明資料



フジ・メディア・ホールディングス

2023年8月3日

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値等、将来に関する記述が含まれている場合があります。実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

# 2024年3月期 第1四半期 連結決算



FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

# 今期決算のポイント

業績

- **連結業績：増収・営業利益減益** 売上高は4.5%増収、営業利益は28.7%減益
- ・メディア・コンテンツ事業は増収減益、都市開発・観光事業は増収増益

ポイント

## ■ **メディア・コンテンツ事業：増収減益**

- ・ **フジテレビ**：増収営業損失  
**放送・メディア**：減収 タイムが単発で増収、レギュラー減収、スポットは地区投下が前年を下回る中、在庫減少もあり減収、配信広告収入は引き続き増収、番組制作費を増額して投下  
**コンテンツ・ビジネス**：増収増益 イベントは「アレグリア-新たなる光-」が大貢献、デジタルはFOD有料配信会員増加、MDはライセンス収入と「アレグリア」の物販が好調、アニメ開発は配分金収入や映画の二次利用等が堅調
- ・ **グループ各社**：売上はビーエスフジの放送収入、ポニーキャニオンの配信、配分金、グッズ関連  
 フジパシフィックミュージックの著作権収入、クオラスのイベント関連等で増収  
 営業利益はフジテレビの減益、DINOS CORPORATIONにおける消費動向の変化の影響等で減益

## ■ **都市開発・観光事業：増収増益**

- ・ **サンケイビル**：前年の大型物件の売却の反動等で減収、住宅、オフィス、ホテルの賃料増で増益
- ・ **グランビスタホテル&リゾート**：ホテル事業が大幅回復で増収黒字化、営業利益は1Qでは連結後最高益

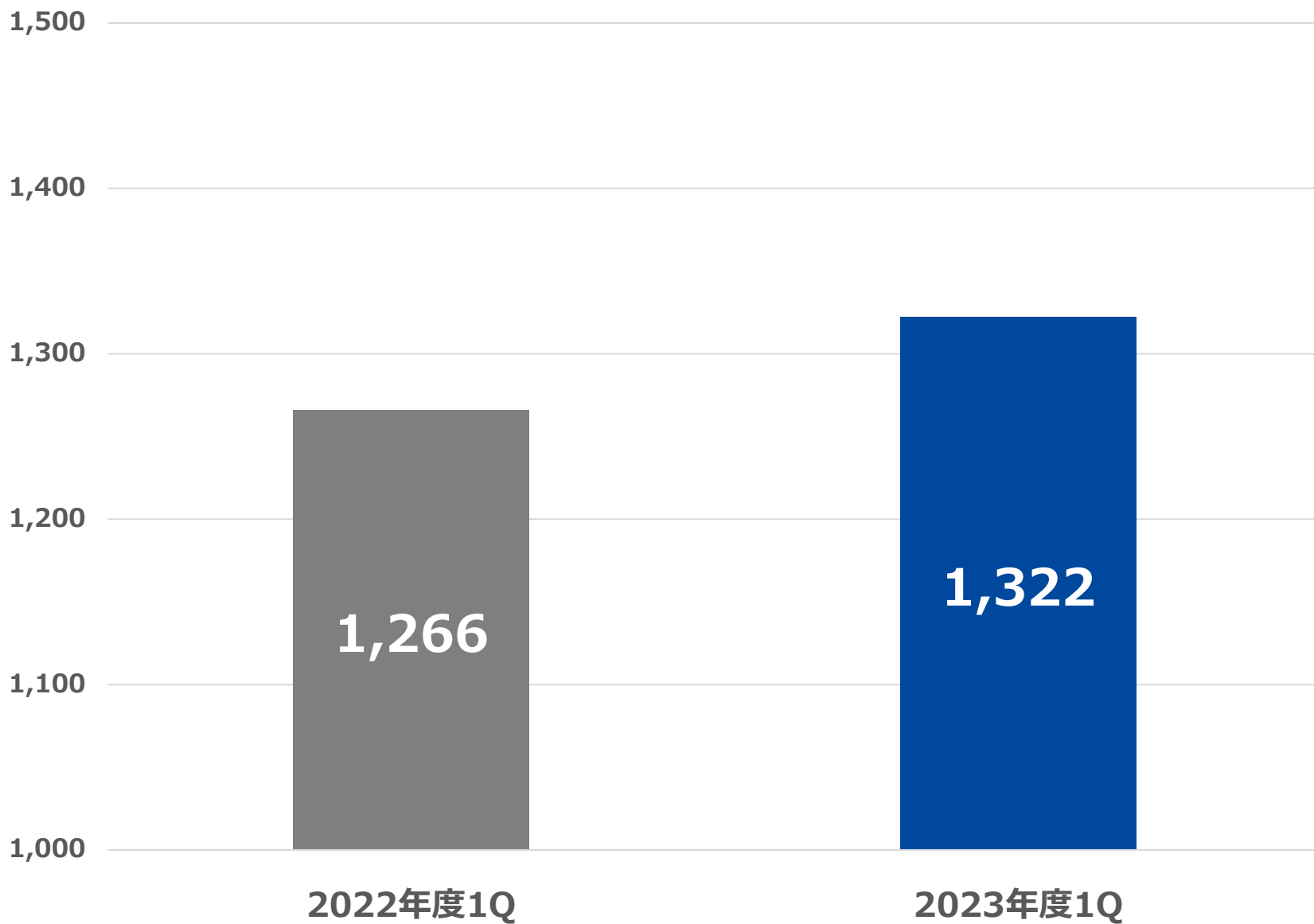
## ■ **通期の連結業績予想：変更無し**

- ・ 連結見通し不変：フジテレビの配信広告、催物事業、デジタル事業、メディア・コンテンツ事業各社および都市開発・観光事業の好調な推移を見込む
- ・ 広告収入のスポット収入変更：足元の状況等を踏まえて変更

見通し  
通期

# 連結売上高

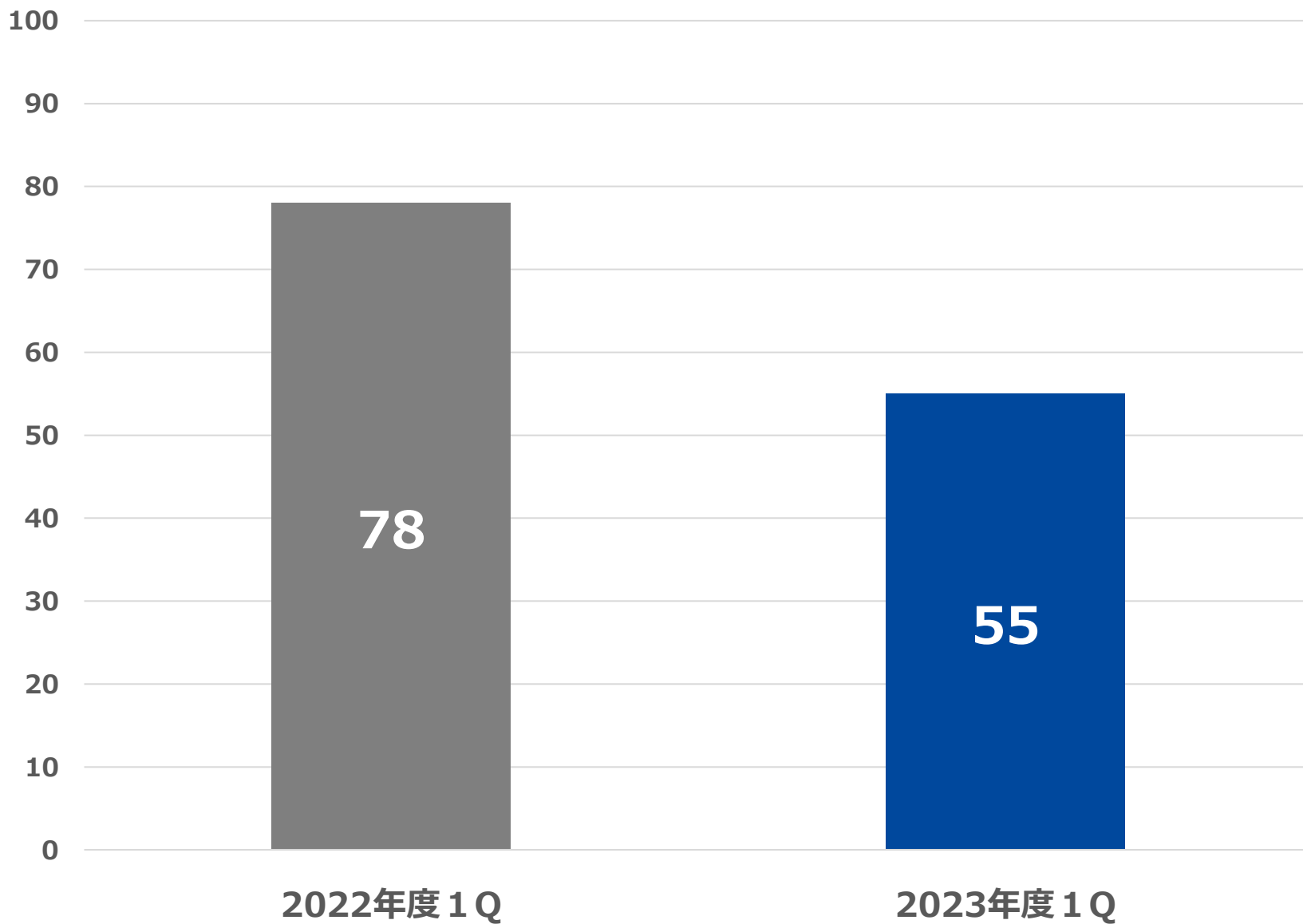
(単位：億円)



**4.5%**  
**増収**

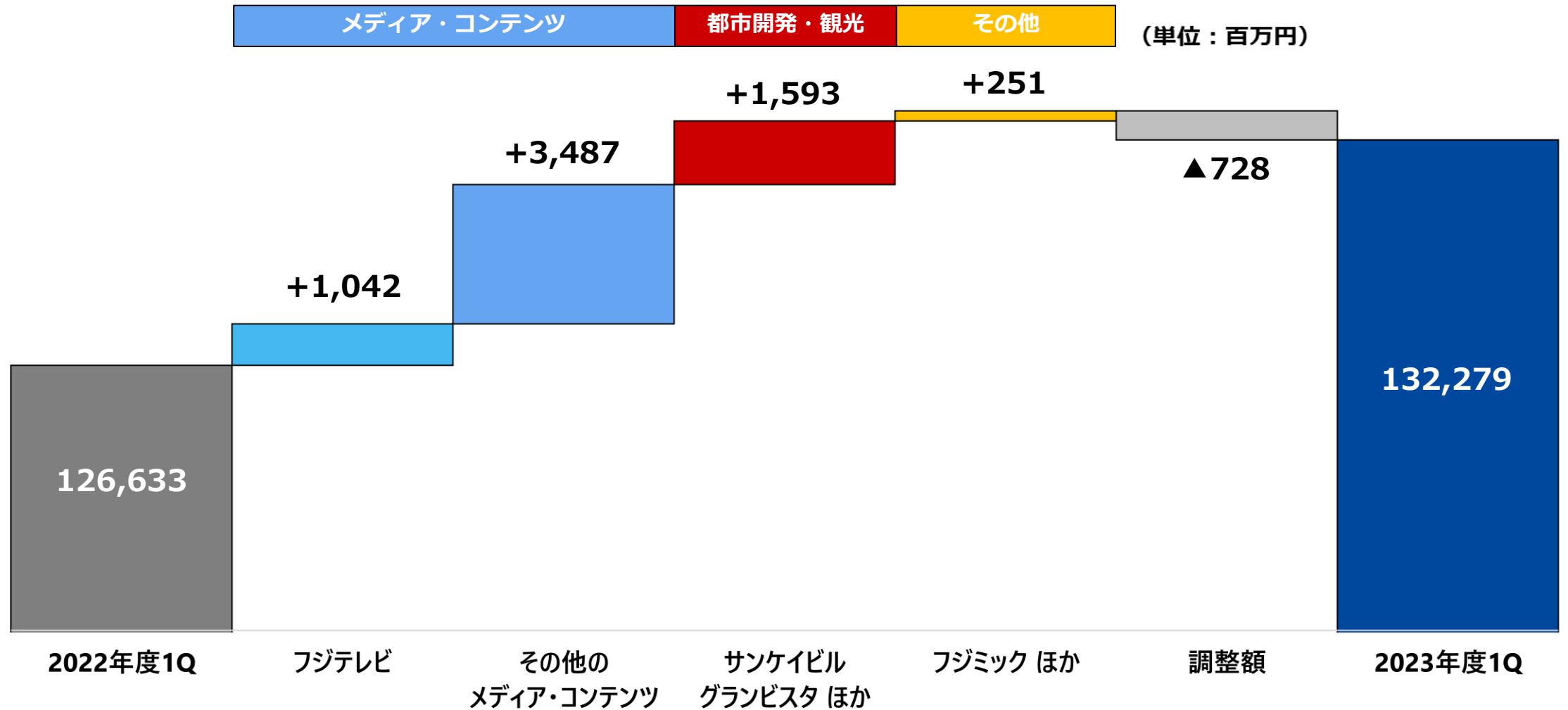
# 連結営業利益

(単位：億円)

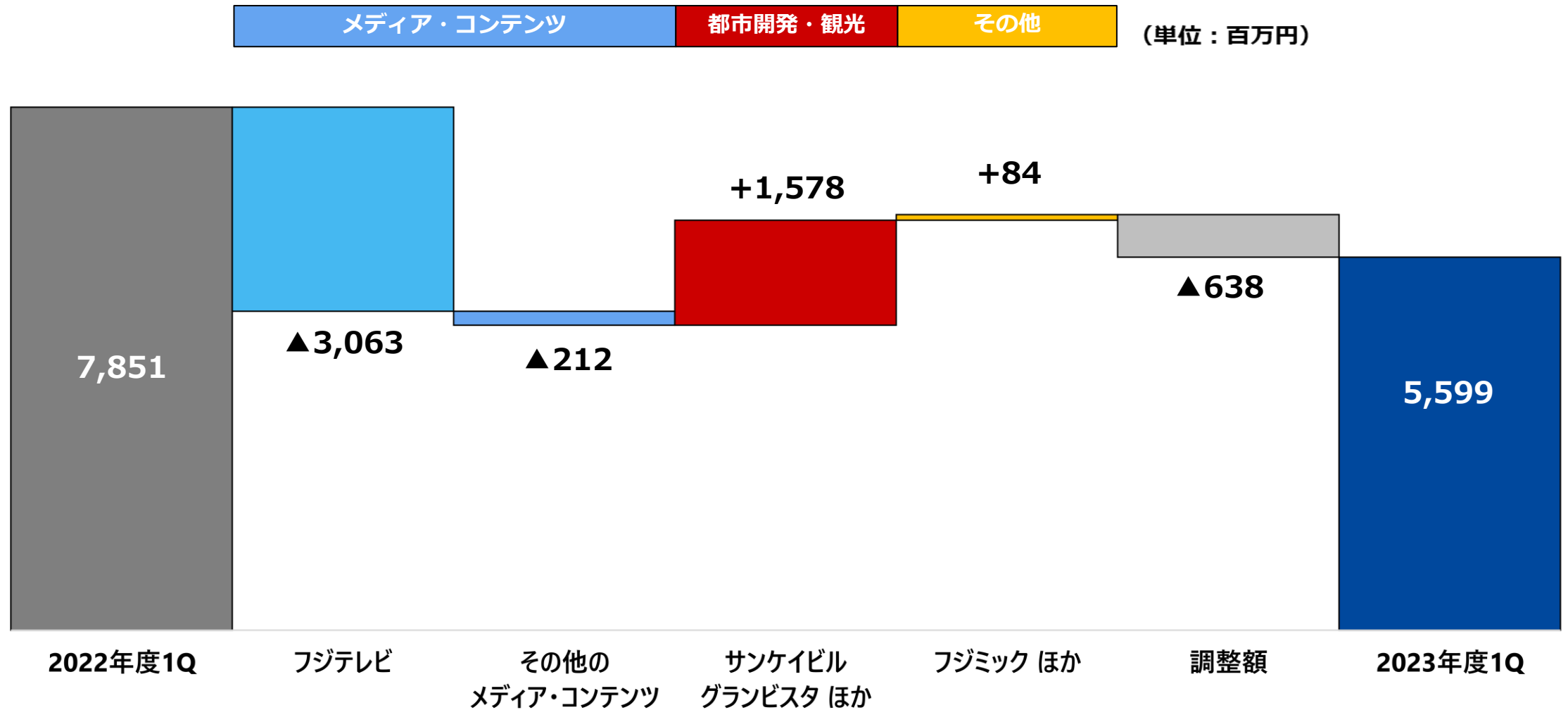


**28.7%**  
**減益**

# セグメント別売上高と増減要因



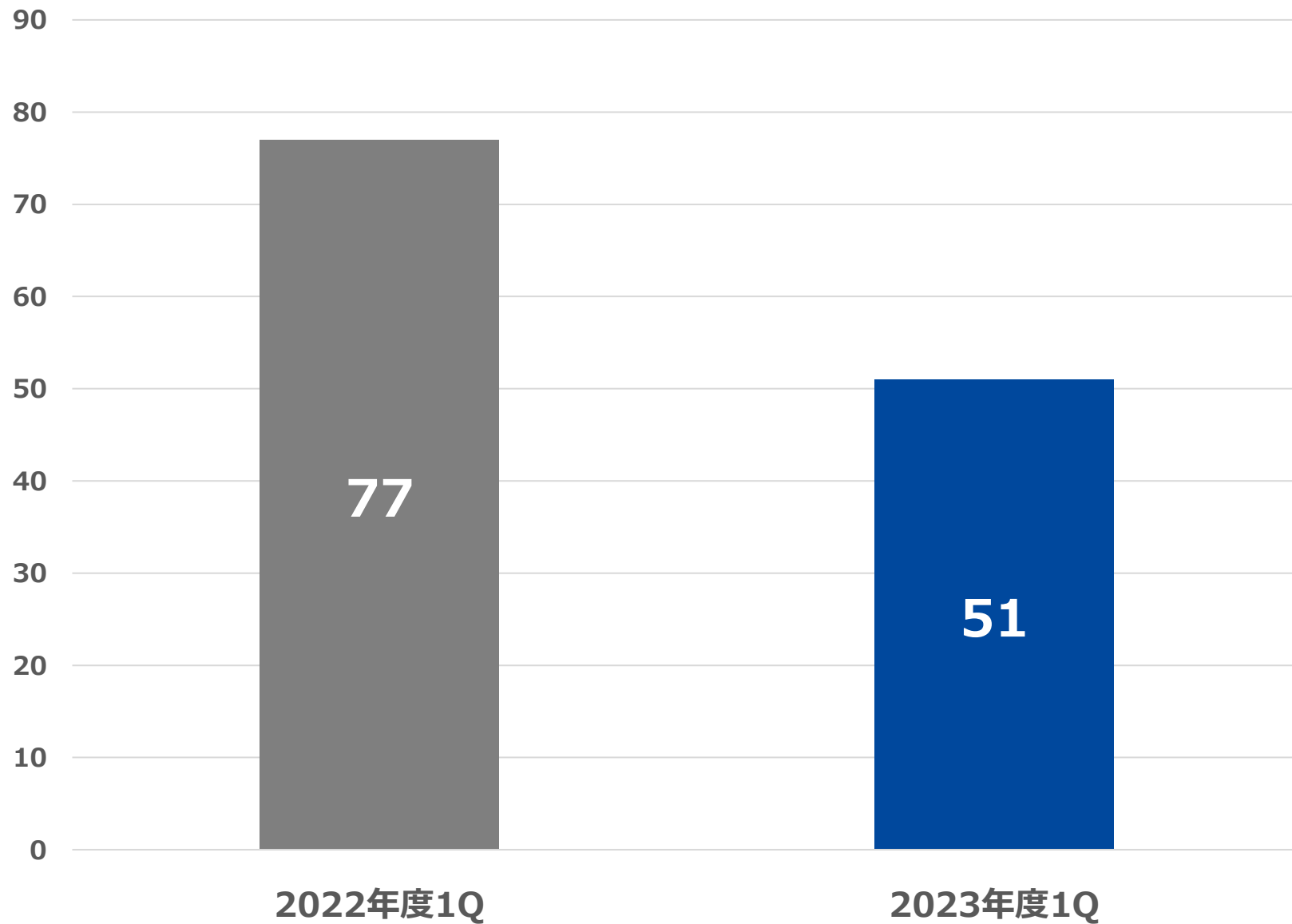
# セグメント別営業利益と増減要因





# 四半期純利益

(単位：億円)



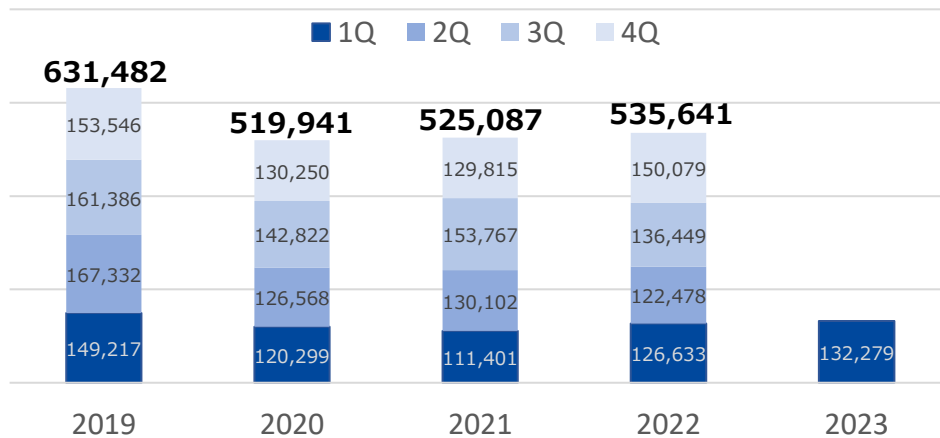
**33.6%**  
**減益**

# 連結決算概要

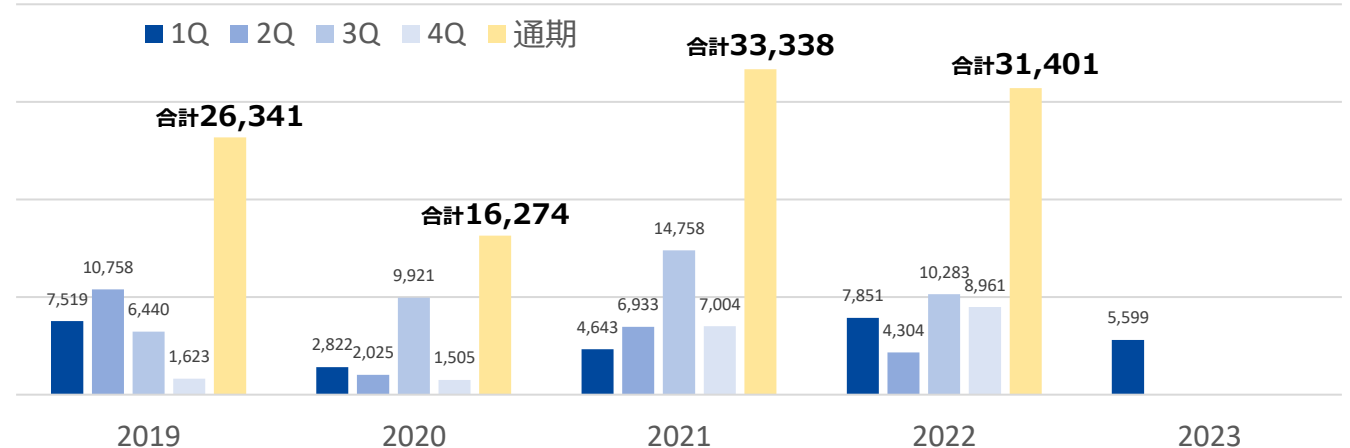
(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減		通期 業績予想 (5/11)	対通期予想 達成率	
売上高	126,633	<b>132,279</b>	5,646	4.5%	557,700	▲425,420	23.7%
営業利益	7,851	<b>5,599</b>	▲2,251	▲28.7%	32,000	▲26,400	17.5%
経常利益	10,598	<b>7,867</b>	▲2,731	▲25.8%	39,300	▲31,432	20.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,785	<b>5,169</b>	▲2,616	▲33.6%	26,000	▲20,830	19.9%

売上高推移



営業利益推移



# セグメント別の売上高及び営業利益

(単位：百万円)

	事業セグメント				計	調整額	連結損益 計算上 額
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開 発 事業	観光 事業	その他 事業			
売上高	2023年度 1Q	102,581	28,937	4,909	136,428	▲4,149	132,279
	2022年度 1Q	98,051	27,344	4,657	130,053	▲3,420	126,633
	増減	4,529	1,593	251	6,374	▲728	5,646
	増減 (%)	4.6%	5.8%	5.4%	4.9%	—	4.5%
営業利益	2023年度 1Q	1,187	5,076	248	6,512	▲912	5,599
	2022年度 1Q	4,464	3,497	163	8,125	▲273	7,851
	増減	▲3,276	1,578	84	▲1,613	▲638	▲2,251
	増減 (%)	▲73.4%	45.1%	51.7%	▲19.9%	—	▲28.7%

# 営業外収益・費用の主な内容

(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減	
営業外収益				
受取配当金	1,691	1,922	231	13.7%
持分法による 投資利益	905	304	▲601	▲66.4%
その他	834	662	▲171	▲20.6%
<b>営業外収益合計</b>	<b>3,430</b>	<b>2,889</b>	<b>▲541</b>	<b>▲15.8%</b>
営業外費用				
支払利息	361	379	17	4.9%
投資事業組合運用損	67	112	45	67.5%
その他	255	130	▲125	▲49.0%
<b>営業外費用合計</b>	<b>684</b>	<b>621</b>	<b>▲62</b>	<b>▲9.1%</b>

# 特別利益・損失の主な内容

(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減	
特 別 利 益				
固 定 資 産 売 却 益	0	1	1	—
投 資 有 価 証 券 売 却 益	50	1	▲49	▲97.9%
会 員 権 売 却 益	—	2	2	—
そ の 他	0	0	▲0	▲99.3%
<b>特 別 利 益 合 計</b>	50	<b>4</b>	▲45	▲90.8%
特 別 損 失				
減 損 損 失	—	261	261	—
特 別 退 職 金	19	—	▲19	▲100.0%
そ の 他	53	54	1	2.2%
<b>特 別 損 失 合 計</b>	73	<b>315</b>	242	330.3%

# セグメント情報（連結子会社）

セグメント	会社名	会社数
メディア・コンテンツ	フジテレビジョン、ビーエスフジ、ニッポン放送、仙台放送、 フジクリエイティブコーポレーション、共同テレビジョン、ポニーキャニオン、 フジパシフィックミュージック、DINOS CORPORATION、クオラス、扶桑社、NEXTEP、 フジアール、フジ・メディア・テクノロジー、共同エディット、バスク、バンエイト、 ベイシス、フジ・ミュージックパートナーズ、 シンコーミュージック・パブリッシャーズ、グレイプ、イミ二免疫薬粧、 FUJI MUSIC GROUP, INC.、ARC/CONRAD MUSIC LLC	24社
都市開発・観光	サンケイビル、グランビスタホテル&リゾート、 サンケイビルマネジメント、サンケイビルテクノ、サンケイビルウェルケア、 サンケイ会館、サンケイビル・アセットマネジメント、 SKB USA LLC、SKB PORTLAND LLC	9社
その他	フジミック、ニッポン放送プロジェクト、フジキャリアデザイン、 FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	4社
合計		37社



# メディア・ コンテンツ 事業



# メディア・コンテンツ事業の決算のポイント

## ビーエスフジ

増収増益



**放送収入が堅調に推移**  
タイムは通販関連の出稿増  
スポットも好調で共に増収  
営業利益は第1四半期で  
過去最高を記録

## ニッポン放送

増収増益



**イベントや  
コンテンツ販売が寄与**  
4年ぶりに開催の  
「ラジオパーク」も  
盛況で増収

## FCC

増収増益



**制作受注好調で  
大幅増収**  
単発バラエティや  
ドラマ好調  
平日午後帯の  
国内番販も増収

## ポニーキャニオン

増収減益



**ノンパッケージ好調**  
グッズ、番組販売、配分金  
配信等が寄与し増収  
アニメ関連の出資金償却が  
増加し減益

## DINOS CORPORATION

減収営業損失



**消費動向の変化への対応の過渡期**  
ファッションや食品は好調に推移  
しかし、コロナ禍で好調だった  
美容健康系商品などのテレビ通販や  
家具収納のカタログ通販の減を補えず

## クオラス

増収増益

**クリエイティブが好調**  
新聞、OOHの広告売上が前期超え  
イベント関連も寄与  
音楽、ゲーム、自動車関連等で増収



# メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 1Q	2023年度 1Q	前期比	2022年度 1Q	2023年度 1Q	前期比
フジテレビジョン	55,466	<b>56,509</b>	1,042 (1.9%)	2,596	<b>▲466</b>	▲3,063 (-)
ビーエスフジ	3,406	<b>3,695</b>	289 (8.5%)	539	<b>815</b>	276 (51.3%)
ニッポン放送	3,240	<b>3,784</b>	544 (16.8%)	140	<b>156</b>	15 (11.1%)
フジクリエイティブ コーポレーション	2,866	<b>4,115</b>	1,249 (43.6%)	160	<b>237</b>	76 (47.8%)
共同テレビジョン	2,481	<b>3,059</b>	578 (23.3%)	<b>▲260</b>	<b>91</b>	352 (-)

# メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 1Q	2023年度 1Q	前期比	2022年度 1Q	2023年度 1Q	前期比
ポニーキャニオン	7,865	<b>8,847</b>	982 (12.5%)	351	<b>140</b>	▲211 (▲60.2%)
D I N O S CORPORATION	14,661	<b>12,857</b>	▲1,803 (▲12.3%)	▲56	<b>▲486</b>	▲429 (-)
クオラス ※	5,329	<b>7,589</b>	2,259 (42.4%)	235	<b>295</b>	60 (25.5%)
その他及び セグメント内修正等	2,734	<b>2,122</b>	-	757	<b>403</b>	-

※ クオラスの広告出稿の実取扱高を含めた売上高は前期11,651百万円、当期13,552百万円です。

# フジテレビ



# フジテレビの決算のポイント

ポイント

増収営業損失：放送・メディア事業は配信広告は引き続き増収ながら、放送収入の減で減収  
コンテンツ・ビジネス事業は、イベント、MD、アニメ開発等が好調で増収。これにより放送収入の減収をカバーし、トータルで増収  
番組制作費は前年より増加。GP帯を中心に放送収入以外にもマネタイズできるコンテンツへ重点的に投下、平日ノンプライム帯も強化

## 放送収入：減収

### ■ タイム

レギュラーは減収、単発は大型バラエティ特番等で増収  
ローカルはスポットとの機動的な枠の融通等で減収

### ■ スポット

一部業種はコロナ後の復調傾向があるものの  
全般的には地区投下が前年を下回る等  
出稿抑制基調の中、在庫減少もあり減収

## 映画：減収

### ■ 劇場公開

2Q以降に寄与

### ■ 2次利用

引き続き配信等が安定して貢献

## デジタル：増収

### ■ FOD

有料会員100万人を超え成長継続  
アプリダウンロード数が3,000万突破

### ■ FNNプライムオンライン

PV数は21か月連続で1億越え

## その他放送・メディア収入：微減収

### ■ 配信広告

前期比+21.4%と引き続き成長  
ナショナルクライアントからの出稿もあり  
予約型・運用型ともに売上拡大

木10「あなたがしてくれなくても」等  
ドラマは引き続き好調  
「まつもtoなかい」「トーキーンズ」等  
のバラエティの再生回数も上昇基調



## イベント：大幅増収

### ■ 「アレグリア-新たなる光-」

「アレグリア」東京公演は  
入場者数52万人と盛況

## MD：増収

### ■ 物販

「アレグリア」の物販が貢献

### ■ ライツ

アニメ関連の配分金が好調



## アニメ開発：増収

「ちいかわ」関連の配分金収入が好調

「劇場版 PSYCHO-PASS  
サイコパス PROVIDENCE」の  
劇場収入や海外番販が堅調



©サイコパス製作委員会

放送・  
メディア

コンテンツ・  
ビジネス

# フジテレビ決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減	
売上高	55,466	<b>56,509</b>	1,042	1.9%
営業利益	2,596	<b>▲466</b>	<b>▲3,063</b>	—
経常利益	2,586	<b>▲403</b>	<b>▲2,990</b>	—
四半期純利益	1,750	<b>▲381</b>	<b>▲2,132</b>	—

# 放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減	
<b>放送・メディア収入</b>	<b>48,154</b>	<b>44,243</b>	<b>▲3,910</b>	<b>▲8.1%</b>
放送収入	40,026	<b>36,142</b>	<b>▲3,883</b>	<b>▲9.7%</b>
ネットタイム	16,042	15,411	<b>▲631</b>	<b>▲3.9%</b>
ローカルタイム	2,682	2,354	<b>▲327</b>	<b>▲12.2%</b>
スポット	21,301	18,377	<b>▲2,924</b>	<b>▲13.7%</b>
<b>その他の放送・メディア収入</b>	<b>8,127</b>	<b>8,100</b>	<b>▲26</b>	<b>▲0.3%</b>
配信広告	985	1,196	211	21.4%
番組販売	3,752	3,745	<b>▲7</b>	<b>▲0.2%</b>
CS放送・その他	3,389	3,159	<b>▲229</b>	<b>▲6.7%</b>
<b>放送・メディア原価</b>	<b>32,280</b>	<b>33,473</b>	<b>1,192</b>	<b>3.7%</b>

# スポット収入 業種別動向

(2023年4月～2023年6月) ※管理ベース

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
化粧品・トイレタリー	12.3%	12.4%	▲12.8%
情報・通信・放送	14.9%	11.8%	▲32.3%
非アルコール飲料	9.4%	9.4%	▲14.8%
外食・各種サービス	8.4%	8.9%	▲8.1%
食品	9.0%	7.9%	▲25.1%
交通・レジャー・観光	4.1%	7.0%	47.6%
金融・保険	5.0%	6.1%	4.3%
アルコール飲料	5.3%	5.8%	▲6.8%
医薬品・医療用品	4.7%	4.5%	▲17.8%

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
出版・エンタテインメント	4.0%	4.3%	▲7.1%
自動車・関連品	2.3%	3.9%	43.6%
事務・精密・光学機器	4.3%	3.6%	▲26.9%
流通・小売業	2.4%	3.5%	22.7%
衣料・身回品・雑貨	5.3%	3.0%	▲50.5%
不動産・住宅設備	2.1%	2.5%	2.0%
家電・AV機器	1.9%	2.2%	0.5%
電話サービス	1.4%	0.7%	▲53.3%
エネルギー・機械	0.8%	0.0%	▲97.2%
その他	2.4%	2.5%	▲10.1%

# 番組制作費

当期は、GP帯を中心に配信広告収入やデジタル事業等、放送収入以外にもマネタイズできるコンテンツへ重点的に投下。  
あわせて平日ノンプライム帯も強化。第2四半期以降もコンテンツを強化しつつ、放送収入の推移も見て適切に運用。

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	対前期増減	
第1四半期	15,742	17,000	1,257	7.9%
第2四半期	17,753			
上期	33,496			
第3四半期	20,544			
第4四半期	18,076			
下期	38,621			
通期	72,117			

※自社制作番組及び購入番組の直接費



# コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減	
<b>コンテンツ・ビジネス収入</b>	<b>7,312</b>	<b>12,265</b>	<b>4,952</b>	<b>67.7%</b>
催物事業収入	673	3,707	3,034	450.7%
映画事業収入	1,678	1,369	▲308	▲18.4%
デジタル事業収入	2,777	3,235	458	16.5%
MD事業収入	716	1,660	944	131.8%
アニメ開発事業収入	332	1,027	695	209.1%
ビデオ事業収入	233	153	▲80	▲34.4%
その他の収入	901	1,110	209	23.2%
<b>コンテンツ・ビジネス原価</b>	<b>6,024</b>	<b>9,357</b>	<b>3,333</b>	<b>55.3%</b>

# 販管費及び営業外損益概要

(単位：百万円)

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	対前期増減	
販売費及び 一般管理費	14,565	14,144	▲420	▲2.9%
販売費	10,431	9,990	▲441	▲4.2%
一般管理費	4,134	4,154	20	0.5%
<b>営業費用合計</b>	<b>52,870</b>	<b>56,976</b>	<b>4,105</b>	<b>7.8%</b>
<b>営業利益</b>	<b>2,596</b>	<b>▲466</b>	<b>▲3,063</b>	<b>—</b>
営業外収益	171	186	15	9.0%
営業外費用	180	122	▲58	▲32.1%
<b>経常利益</b>	<b>2,586</b>	<b>▲403</b>	<b>▲2,990</b>	<b>—</b>

# 都市開発・ 観光事業





# 都市開発・観光事業の決算のポイント

## サンケイビル

減収増益

## グランビスタ ホテル&リゾート

増収黒字化

## その他

増収増益

### 賃貸事業

好調

- ・住宅：ルフォンプログレ等の賃料増で好調
- ・ビル等：新規オフィスビルの本格的な稼働やホテルの高稼働で賃料収入堅調

### 分譲・販売事業

反動減

- ・分譲は前年の大型物件「ルフォンザタワー大塚」の反動
- ・販売は下期を中心に計画あり

### ホテル事業

本格的回復

観光需要の回復で稼働率、客室単価ともに上昇

### 海洋レジャー事業

好調

鴨川シーワールドは引き続き好調

### ■サンケイビル マネジメント

新規物件の受注増加や内装工事等の受注拡大

### ■サンケイビル ウェルケア

入居者増



本町サンケイビル



ルフォン松戸北小金（完成イメージ）



札幌グランドホテル



鴨川シーワールド



# 都市開発・観光事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 1Q	2023年度 1Q	前期比	2022年度 1Q	2023年度 1Q	前期比
サンケイビル	18,671	<b>16,931</b>	▲1,740 (▲9.3%)	3,381	<b>3,778</b>	397 (11.7%)
グランビスタ ホテル&リゾート	4,955	<b>7,037</b>	2,081 (42.0%)	▲305	<b>711</b>	1,016 (-)
その他及び セグメント内修正等	3,717	<b>4,969</b>	-	421	<b>586</b>	-

# サステナビリティ



# サステナビリティへの取り組み

## TCFD提言に基づく 情報開示

### ■ TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に基づく情報

5月16日に東京証券取引所に開示：<https://www.fujimediahd.co.jp/ir/pdf/tcfid230516.pdf>

### ■ 気候変動が当社グループの事業にもたらす影響

放送事業、通販事業、都市開発・観光事業のリスクと機会を特定し、財務への影響を分析

### ■ 指標と目標

対象：フジテレビ・DINOS CORPORATION・サンケイビルの3社

指標：温室効果ガス排出量（Scope1・2）

目標：2030年度までに2013年比50%減、2050年度までにカーボンニュートラルを実現

## グループ各社の 取り組み

### ■ フジテレビ

2024年5月までにフジテレビ本社ビル・湾岸スタジオにおける電気由来の温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることを発表  
再エネ価値取引市場において、FIT非化石証書の調達を行う

### ■ サンケイビル

物流施設「SANKEILOGI府中」の開発に着手

敷地内の遺跡を保存し公開するほか、公園を整備し地域の皆様に開放して地域社会に貢献  
他のSANKEILOGI施設と同様に、太陽光発電システムなどを導入し環境への負荷も低減



# 2024年3月期 業績予想と トピックス





# 2024年3月期通期 連結業績予想 (修正なし)

(単位：百万円)

	2023年3月期 通期	2024年3月期 通期予想	対前期増減	
売上高	535,641	557,700	22,059	4.1%
営業利益	31,401	32,000	599	1.9%
経常利益	39,053	39,300	247	0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	46,855	26,000	▲20,855	▲44.5%

## 地上波テレビ広告収入の通期見込み (修正あり) (前期比)

	今回予想	前回予想(5/11)
ネットタイム	▲0.4%	▲0.4%
ローカルタイム	+0.7%	+0.7%
スポット	▲11.8%	+2.2%
放送収入合計	▲6.1%	+1.1%

# 2024年3月期通期 セグメント別業績予想 (修正なし)

(単位：百万円)

	事業セグメント				合計	調整額	連結損益 計算書 計上額
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開 発・ 観光 事業	発 光 業	そ の 他 業			
売上高	2024年3月期 通期予想	441,800	113,300	19,100	578,100	▲16,500	557,700
	2023年3月期 通期実績	420,836	108,841	20,394	550,072	▲14,430	535,641
	増減率	4.9%	4.1%	▲6.3%	5.1%	—	4.1%
営業利益	2024年3月期 通期予想	20,500	12,900	700	34,100	▲2,100	32,000
	2023年3月期 通期実績	17,484	15,070	931	33,487	▲2,086	31,401
	増減率	17.3%	▲14.4%	▲24.8%	1.8%	—	1.9%

# 設備投資計画と減価償却費

(単位：百万円)

		2024年3月期		2025年3月期 通期 (計画)
		1Q (実績)	通期 (計画)	
設備投資額	連 結	10,607	60,300	62,500
	フジテレビ	1,451	10,000	6,000
	都市開発・観光事業	8,330	45,700	51,700
	フジ・メディアHD	273	2,500	3,000
減価償却費	連 結	4,433	19,300	20,400
	フジテレビ	1,440	6,600	6,900
	都市開発・観光事業	1,710	7,400	8,300
	フジ・メディアHD	466	2,000	2,300

# 中期グループビジョントピックス

## グループ 成長戦略 (ビジョンP.4)

- **「メディアを拡げる」メディア・コンテンツ事業：配信事業を通じた販路の拡大**
  - ・フジテレビ：配信広告収入の成長、FODの会員増加によるデジタル事業収入増
  - ・ニッポン放送：ポッドキャスト等デジタル領域の収入拡大
  - ・ポニーキャニオン：音楽・映像共に配信での収入拡大、人気アーティストの楽曲やアニメが好調
- **「ビジネスエリアを拡げる」都市開発・観光事業：インバウンド需要の取り込み強化**
  - ・サンケイビル、グランビスタホテル&リゾート：東京・大阪を中心に、外国人観光客急回復

## 成長投資 (ビジョンP.7)

- **メディア・コンテンツ事業：配信事業の成長に向けたコンテンツ投資の促進**
  - ・フジテレビ：地上波・AVOD・SVOD等多様な収益を獲得できるコンテンツへの投資
  - ・ポニーキャニオン：ノンパッケージでの収益拡大に向けた、アニメ等のIPの確保への投資
- **都市開発・観光事業：サンケイビルによる設備投資**
  - ・3月に実施した200億円の増資により拡大した投資余力を活用し、多様なアセットに投資

## 株主還元 (ビジョンP.7)

- **自己株式取得の推進（23年7月31日現在）**  
取得した株式の総数：2,061,100株・株式の取得価額の総額：28.8億円

## ガバナンス 体制 (ビジョンP.7)

- **独立社外取締役が過半数を占め、かつ委員長を務める経営諮問委員会を設置**  
経営課題全般、取締役の選任・解任、監査等委員である取締役を除く取締役の報酬等について助言・提言を行い、コーポレート・ガバナンスを一層強化

# メディア・コンテンツ事業 今後のトピックス

フジ  
テレビ



タイム  
テーブル  
TVer



イベント



映画



デジタル

©フジテレビ



## ■商品構成と販路の見直しを同時進行

消費者動向の変化を踏まえ、商品構成と販路の見直しを実施  
商品構成は外出需要を取り込んだファッションや食品の定期便等を強化  
販路は効率的なカタログの投入や、ECサイト上のコンテンツの充実を図る

## ■アニメから海外作品まで、幅広い作品を配信やパッケージで展開

アニメ「東京リベンジャーズ」-天竺編-  
映画「ジョン・ウィック：コンセクエンス」(9月22日公開)

ジョン・ウィック：コンセクエンス 9月22日(金)全国公開(配給：ポニーキャニオン) ©, TM & © 2023 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved.

DINOS  
CORPO  
RATION

ポニー  
キャニ  
オン

# 都市開発・観光事業 今後のトピックス

## サンケイビル

### 賃貸事業

**大阪中央区常盤町計画**  
2024年1月竣工予定・169戸

**西大井一丁目計画**  
2024年1月竣工予定・137戸

**墨田区曳舟計画**  
2024年1月竣工予定・90戸

**S-GATE FIT日本橋馬喰町**  
2023年4月竣工

敷地面積609.50㎡・延床面積4,821.55㎡

**S-GATE FIT天神南**  
2023年7月竣工

敷地面積893.57㎡・延床面積4,787.66㎡



S-GATE FIT日本橋馬喰町

●竣工時期・販売時期は変更することがあります。また、賃貸物件が販売されることがあります。  
●開発中物件の名称は全て仮称です。

### 分譲・販売事業

**分譲：ルフォン松戸北小金**  
2023年7月竣工・60戸

**BLISSTIA箱根仙石原**  
(日本初のホテルコンドミニアム・  
ホテルレジデンスとしての分譲事業\*)  
2023年9月竣工予定

敷地面積約6,746㎡・延床面積約6,272㎡

\*「ホテルコンドミニアム」と「ホテルレジデンス」  
(2018年に施行された民泊新法を利用して、宿泊施設として貸し出すことを前提とした新築分譲マンション)  
で構成されたリゾート不動産商品として日本初。

### 【今期竣工予定の投資家向け不動産商品】

**新なんばプロジェクトⅠ**  
2023年10月竣工予定・136戸

**新なんばプロジェクトⅡ**  
2024年1月竣工予定・118戸

**学芸大学**  
2024年2月竣工予定・34戸



BLISSTIA箱根仙石原 (完成イメージ)

## グランビスタ ホテル&リゾート

### ホテル事業

#### インバウンドの回復に期待

- ・国内旅行客はコロナ前水準へ既に回復
- ・インバウンドの回復により「インターゲートホテルズ」はじめ稼働率、客単価の更なる上昇を見込む

### 海洋レジャー事業

#### 国内需要で引き続き好調

- ・鴨川シーワールドの入場者数は引き続き好調に推移
- ・神戸の須磨海浜水族園の営業を5月に終了「神戸須磨シーワールド」2024年6月開業を目指し、再開発進行中



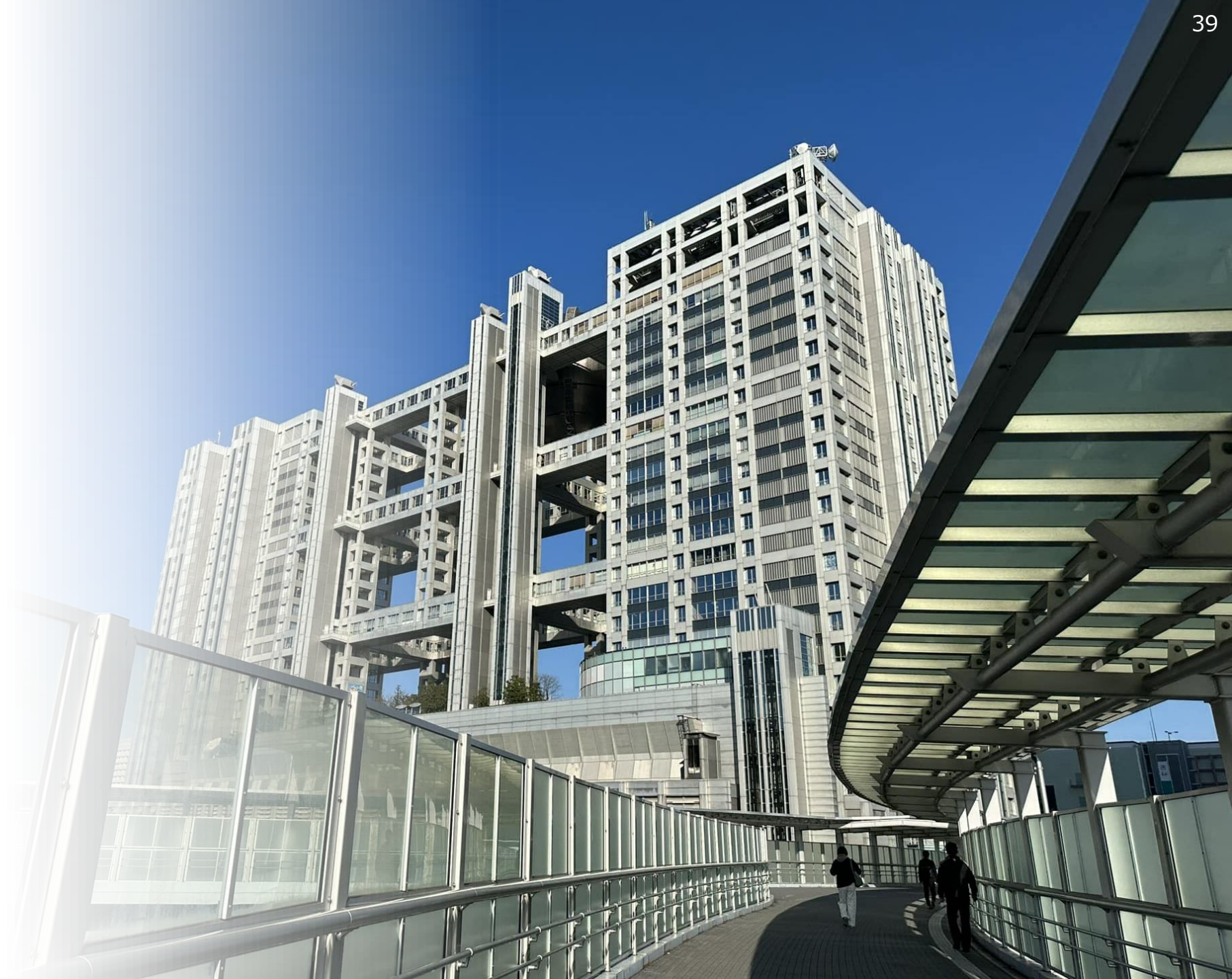
神戸須磨シーワールド (完成イメージ)

住宅等

オフィス・その他



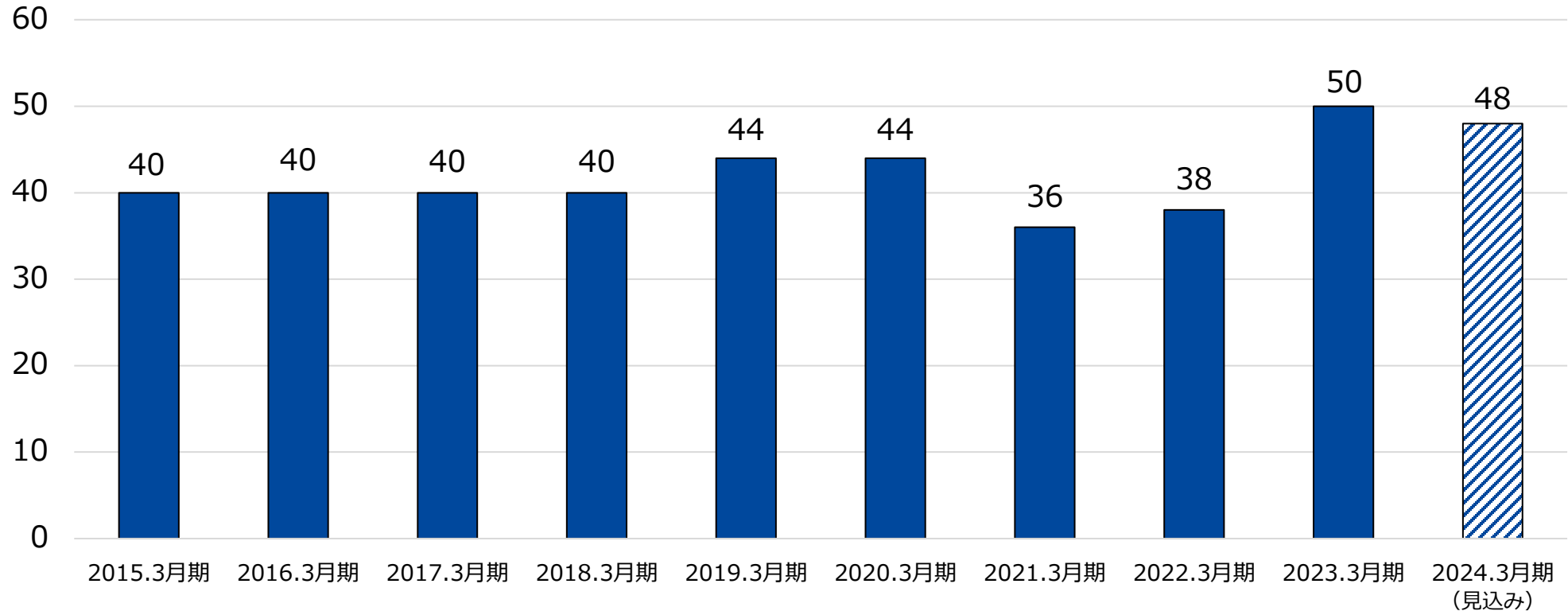
# 株主への 利益還元



# 株主への利益還元

2024年3月期 年間配当48円 (見込み)

連結ベースの配当性向40%を基本に、配当の安定性等を考慮して決定  
自己株式取得を2024年3月までに100億円を上限に実施中



※2019年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行10周年及び(株)フジテレビジョン開局60周年記念配当4円が含まれております。  
2023年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行15周年及び(株)フジテレビジョン開局65周年記念配当10円が含まれております。